

当院に入院・通院されていた患者さんのうち、

- ・ 消化器組織細胞の培養法確立と遺伝子変異を基にした増殖因子感受性の検討
- ・ 消化器慢性炎症性疾患における遺伝子変異の検索

の研究にご協力頂いた患者さんに、新規研究へのご協力をお願い

研究責任者 所属 坂口光洋記念講座(オルガノイド医学) 職名 教授

氏名 佐藤 俊朗

連絡先電話番号 03-5363-3063

実務責任者 所属 消化器内科 職名 助教

氏名 南木 康作

連絡先電話番号 03-5363-3063

このたび当院では、慶應義塾大学病院に入院・通院されていた患者さんのうち、上記の研究へのご協力を頂いた患者さんから樹立した細胞を用いて新規の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、佐藤俊朗までご連絡をお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2011 年 6 月 27 日から現在までの間に、慶應義塾大学病院消化器内科、一般消化器外科にて治療・検査のため通院あるいは入院し、下記研究への協力を同意され検体提供を行った方。

- ・ 消化器組織細胞の培養法確立と遺伝子変異を基にした増殖因子感受性の検討
- ・ 消化器慢性炎症性疾患における遺伝子変異の検索

2 研究課題名

承認番号：20160290

3 次元培養を用いた炎症性・腫瘍性消化管疾患上皮細胞におけるたんぱく糖鎖変化の検討

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部消化器内科

4 本研究の意義、目的、方法

私たちの体を構成する細胞は多くのたんぱく質から構成されています。このたんぱく質には糖に

よって様々な飾り付け（糖鎖修飾）を受けることが知られています。近年これらの糖鎖修飾が病気によって異なっていることがわかってきました。これらの糖修飾の変化を調べることにより、炎症性腸疾患や消化器癌の病期の原因の解明や、糖修飾を受けたたんぱく質を標的とした抗体作製による新規治療法の開発が期待されます。

私たちは、培養皿の上で消化器臓器の細胞を培養することに成功しています。この技術は腫瘍性の病変や炎症性の病変にも応用でき、これまでの間に多くの患者さんからの協力を得て、臨床での腫瘍・疾患と同様の性質を持つ細胞の樹立に成功しています。

そこでわれわれはこの培養細胞に含まれるたんぱく質の糖鎖を調べることにより病気の原因解明や新規治療法の開発を目指した研究を行っています。

5 協力をお願いする内容

別の研究課題（上記）で頂いた消化器組織から作製した培養細胞を用います。そのため、この研究への参加に伴う身体の危険性は全くありません。これらの培養細胞を用いて、消化器癌・炎症性腸疾患の糖鎖解析研究に使用します。使用する際には、個人を特定できるような氏名や住所などの個人情報はずべて削除し、匿名化した上で符号のみを付加します。符号と個人を結びつける連結表は作成しないため、匿名化後はどのサンプルがどの患者さんから頂いたものかわからないため、そのサンプルから個人を特定することが不可能となります。

6 本研究の実施期間

西暦 2016年 10月 1日～ 2021年 3月 31日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、年齢・性別・治療歴・病理組織型・臨床病期・判明した癌関連遺伝子変異リスト・採取部位・病型のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの培養細胞は、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化サンプルを結びつける表（対応表）は作成しないため、匿名化後はどのサンプルがどの患者さんから頂いたサンプルかわかりません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

坂口光洋記念講座（オルガノイド医学） 教授 佐藤俊朗

電話 03 - 5363 - 3063（平日 9：00-17：00）

以上